NEWS RELEASE

2024 年 9 月 12 日

アサヒ飲料株式会社

大気中のCO_2の吸収を可能にした「CO_2を食べる自販機」を「シエリアタワー大阪堀江」に設置

“実質CO_2ゼロ”をコンセプトとしたマンション

アサヒ飲料株式会社近畿圏本部（大阪府大阪市北区、本部長：清水 博之）は、関電不動産開発株式会社（本社：大阪府大阪市北区、代表取締役社長：福本 恵美）、住友不動産株式会社（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：仁島 浩順）およびパナソニック ホームズ株式会社（本社：大阪府豊中市、代表取締役社長：藤井 孝）が開発する 2024 年 8 月竣工の「シエリアタワー大阪堀江」に、大気中の CO_2 の吸収を可能にした「CO_2 を食べる自販機」を設置します。

画像はイメージです
実際に設置する機器とはデザインが異なります

「CO_2 を食べる自販機」は、大気中の CO_2 の吸収を可能とした新たな自動販売機を設置し、吸収した CO_2 を肥料やコンクリートなどの工業原料に活用することで、脱炭素社会の実現に貢献する取り組みです。

「シエリアタワー大阪堀江」は、竣工後の CO_2 排出量が実質ゼロ※となる「実質 CO_2 ゼロ・次世代型タワー」です。「シエリアタワー大阪堀江」のコンセプトと本取り組みが合致したことにより、設置に至りました。

※居住者が使用する電気は水力・火力・原子力などの電源の電気を組み合わせたものですが、居住者が「再エネＥＣＯプラン」に加入することで、再生可能エネルギー由来の非化石証書の持つ環境価値を付加でき、実質的に再生可能エネルギー由来のＣＯ$_2$フリーの電気となります

＜参考＞

■「CO_2を食べる自販機」を活用したCO_2資源循環について

【CO_2の吸収】

CO_2吸収性能として1台当たりのCO_2年間吸収量は稼働電力由来のCO_2排出量の最大20%を見込んでおり、スギ（林齢56-60年）に置き換えると約20本分の年間吸収量に相当します。

現在は関東・関西エリアを中心に、CO_2濃度が高いとされる屋内に加え屋外などさまざまな場所に2024年5月末時点で約100台設置しています。

脱炭素社会の実現に貢献する国内初の取り組みであり、大気中のCO_2の吸収を可能にした自動販売機は、特許（特許第7282338号）取得済みです。

【吸収したCO_2の活用】

自動販売機から吸収したCO_2は、取り組みにご賛同いただける各自治体や企業と共創しながら、さまざまな工業原料として活用することを計画しています。吸収材を肥料に配合し土壌に散布することでCO_2の土壌貯留を図るほか、コンクリートの原料に配合しCO_2の固定化や海中での藻場造成などに活用することでブルーカーボン生態系※1の再生を図ることなどを検討しています。

※1:ブルーカーボンとは「海洋生態系に蓄積される炭素」のことであり、そうした作用を有する生態系

アサヒグループでは、グループ理念“Asahi Group Philosophy”の行動指針の一つとして「事業を通じた持続可能な社会への貢献」を掲げています。サステナビリティの重点テーマの一つである「気候変動への対応」においては、CO_2排出量削減の中長期目標「アサヒカーボンゼロ」を設定し、2040年までにCO_2排出量をネットゼロとすることを目指しています。

■「シエリアタワー大阪堀江」について

国内初※2の「超高層ZEH-M」×「オール電化」※3×「ゼロカーボン電気」を実現した新発想の「実質CO_2ゼロ・次世代型タワー」。

竣工後のCO_2排出量が実質ゼロとなる「実質CO_2ゼロ・次世代型タワー」プロジェクトを始動。この取り組みは、オール電化を採用し、経済産業省「令和3年度超高層ZEH-M（ゼッチ・マンション）実証事業」に採択された物件としては国内初となります。また、マンションへ再生可能エネルギー由来のゼロカーボン電気を導入することで、マンションまるごと「実質CO_2ゼロ」を実現します。

所在地：大阪府大阪市西区南堀江三丁目8番1（地番）

※2:2022年1月31日時点の公表情報に基づきます。また、「超高層ZEH-M」は「超高層ZEH-M実証事業採択物件」を指します

※3:電気給湯機「エコキュート」と「IHクッキングヒーター」（据え付けて使用する電磁誘導加熱調理器）を採用し、家庭内で用いる全てのエネルギーを電気に統一した仕様を指します

＜本件に関するお問い合わせ先＞

アサヒ飲料株式会社　近畿圏本部　電話:0570-050-328